

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	獨協医科大学附属看護専門学校三郷校
設置者名	学校法人 獨協学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	看護学科 (新カリキュラム)	夜・通信	600 時間	240 時間	
	看護学科 (旧カリキュラム)	夜・通信	885 時間	240 時間	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.dokkyomed.ac.jp/misato/curriculum/syllabus.html

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	獨協医科大学附属看護専門学校三郷校
設置者名	学校法人 獨協学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.dac.ac.jp/pdf/yakuinmeibo.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	副市長	R3.6.1 ~ R5.8.31	組織運営体制への チェック機能等
非常勤	医療法人理事長	R1.8.2 ~ R5.8.1	〃
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	獨協医科大学附属看護専門学校三郷校
設置者名	学校法人 獨協学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>(取組)</p> <p>教務委員会において、授業科目内容、講義担当者等の精査及びシラバスの編纂を実施</p> <p>(前年度)</p> <p>9月～10月：次年度年間行事予定を作成し、カリキュラム編成の確認及び検討</p> <p>11月～12月：学年別カリキュラム編成作業及びシラバス構成の確認</p> <p>1月～2月：講義担当者の依頼、シラバス作成依頼及び編纂</p> <p>3月上旬：シラバス最終点検</p> <p>3月下旬：ホームページに公開 (WEBシラバス)</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.dokkyomed.ac.jp/misato/curriculum/syllabus.html

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>本校の成績評価の方法は、単位認定試験（筆記試験）のほかに、各授業の進度に応じシラバスに明示された到達目標の成果を測るため、小テスト、レポートや実技評価等、多様な方法を用い総合的に行う。ただし、臨地実習及び看護研究については、次の方法により評価を行う。</p> <p>臨地実習：対象との相互関係や環境が学習の質に大きく影響するため、学修成果をルーブリック評価表とポートフォリオを用いて評価する。</p> <p>看護研究：論文内容と研究プロセスを重視するため、看護研究評価表を用いて評価する。</p> <p>成績評価の基準は、学生のしおり（P70～P71 本校履修規程）に示すとおり、A（80点以上） B（80点未満～70点） C（70点未満～60点） D（60点未満）とし、C評価以上を合格（単位認定）とする。</p> <p>なお、臨地実習及び看護研究については合否の2段階評価とする。</p> <p>これら各学生の授業科目については、シラバスに記載された成績評価の方法に基づき評価し、教務委員会及び運営委員会において慎重に審議し、単位認定及び履修認定を行う。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校では、当該学年で履修すべき全科目の成績結果を合計して平均点を算出し、この平均点を成績の客観的な指標として取り扱い、ホームページで明示している。また、臨地実習と看護研究についても、学生に配布する各実習評価表・看護研究評価表に基づき100点満点で学修成果を算出している。</p> <p>これらの指標をもとに、学生自身が所属する学年の中でどの位置にあるかを把握し、自らの授業への取り組みの主観的評価を行い、その後の学修に繋げるようにする。また、教員は学生の学修状況や授業評価を活用して、教育方法の改善に繋げていく。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.dokkyomed.ac.jp/misato/curriculum/syllabus.html</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校の教育理念及び教育目的に基づき、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生の卒業を認定する。</p> <p>ディプロマポリシー（新カリキュラム）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職業人としての倫理観に基づく看護を実践できる。 2. 看護の対象を総合的に理解し、科学的な知識・技術に基づいた看護を実践できる。 3. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護の役割と責任をもって協働できる。 4. 看護の発展や質の向上に貢献できるよう、主体的学修能力を身につける。 5. 国際的視野を持ち看護を実践できる。 <p>ディプロマポリシー（旧カリキュラム）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理に基づいた、思いやりのある看護ができる。 2. 看護師としての責任と自覚をもち、主体的に学習する姿勢がある。 3. 人間を総合的に理解し、科学的な根拠に基づいて健康問題を解決する能力がある。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、連携と協働ができる基礎的能力がある。 5. 生命と人に対する尊厳を重んじた自己の看護観を持っている。 <p>卒業要件</p> <p>本校で履修すべき全ての科目単位を修得した者を卒業とする（本校履修規程第15条）。</p> <p>第3学年の卒業判定は、最終成績が確定した1月の運営委員会において、上記ディプロマポリシーを踏まえ、履修規程に照らし厳正かつ適正に卒業の認定を行う。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.dokkyomed.ac.jp/misato/school/education1-policy.html

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	獨協医科大学附属看護専門学校三郷校
設置者名	学校法人 獨協学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.dac.ac.jp/finance/
収支計算書又は損益計算書	https://www.dac.ac.jp/finance/
財産目録	https://www.dac.ac.jp/finance/
事業報告書	https://www.dac.ac.jp/finance/
監事による監査報告（書）	https://www.dac.ac.jp/finance/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療関係		専門課程	看護学科 (新カリキュラム)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,940時間	1,245 時間	600 時間	1,080 時間	0 時間	15 時間
単位時間／単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		244人	0人	20人	103人	123人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療関係		専門課程	看護学科 (旧カリキュラム)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,030時間	1,515 時間	450 時間	1,035 時間	0 時間	30 時間
単位時間／単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		244人	0人	20人	103人	123人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） （取組） ・教務委員会において、授業科目内容、講義担当者等の精査及びシラバスの編纂を実施

<p>(前年度)</p> <p>9月～10月：次年度年間行事予定を作成し、カリキュラム編成の確認及び検討</p> <p>11月～12月：学年別カリキュラム編成作業及びシラバス構成の確認</p> <p>1月～2月：講義担当者の依頼、シラバス作成依頼及び編纂</p> <p>3月上旬：シラバス最終点検</p> <p>3月下旬：ホームページに公開（WEBシラバス）</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>本校の成績評価の方法は、単位認定試験（筆記試験）のほかに、各授業の進度に応じシラバスに明示された到達目標の成果を測るため、小テスト、レポートや実技評価など、多様な方法を用い総合的に行う。ただし、臨地実習及び看護研究については、以下の方法により評価を行う。</p> <p>臨地実習：対象との相互関係や環境が学修の質に大きく影響するため、学修成果をルーブリック評価表とポートフォリオを用いて評価する。</p> <p>看護研究：論文内容と研究プロセスを重視するため、看護研究評価表を用いて評価する。</p> <p>成績評価の基準は、学生生活のしおりに示す（P70・P71 本校履修規程）とおり、A（80点以上）B（80点未満～70点）C（70点未満～60点）D（60点未満）とし、C評価以上を合格（単位修得）とする。</p> <p>なお、臨地実習及び看護研究については合否の2段階評価とする。</p> <p>これら各学年の授業科目については、シラバスに記載された成績評価の方法に基づき評価し、運営委員会において慎重に審議し単位授与及び履修認定を行う。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>本校のディプロマポリシー（卒業の認定に関する方針）は、以下のとおりである。</p> <p>(新カリキュラム)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職業人としての倫理観に基づく看護を実践できる。 2. 看護の対象を相互的に理解し、科学的な知識・技術に基づいた看護を実践できる。 3. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護の役割と責任をもって協働できる。 4. 看護の発展や質の向上に貢献できるよう、主体的学修能力を身につける。 5. 国際的視野を持ち看護を実践できる。 <p>(旧カリキュラム)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理に基づいた、思いやりのある看護ができる。 2. 看護師としての責任と自覚をもち、主体的に学習する姿勢がある。 3. 人間を総合的に理解し、科学的な根拠に基づいて健康問題を解決する能力がある。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を理解し、連携と協働ができる基礎的能力がある。 5. 生命と人に対する尊厳を重んじた自己の看護観を持っている。 <p>卒業要件</p> <p>本校で履修すべき全ての科目単位を修得した者を卒業とする（本校履修規程第15条）。</p> <p>3年次の卒業の判定は、最終成績が確定した1月の運営委員会において、上記ディプロマポリシーを踏まえ、履修規程に照らし厳正かつ適正に卒業の認定を行う。</p>

学修支援等

(概要)

- ・入学前に高等学校教育の復習と基礎学力の維持を目的に e-learning 「みかんどリル」を導入している。
- ・講義や演習・実習にプロジェクト学習を取り入れ、課題を明確にし、主体的に課題解決に向け取り組む中で、論理的思考・創造力・情報収集力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力を身につける。
- ・入学後の教科外活動でプロジェクト学習のプロセスを体験し、その後の演習・実習で活用できるようにしている。
- ・体験を通しての学びを重視し、リフレクションを取り入れている。
教員は、学生が体験を振り返り、看護の意味づけや成長を実感できるように支援する。
- ・1年次より模擬試験をはじめとする看護師国家試験対策を行い、学生個々の進捗と理解度に応じた指導を実施している。
- ・生活面や学習行動に課題があり、単位修得に課題のある学生に対して個人面談をして自己課題に応じた学習・生活指導を行う。また、メンタル面や発達に課題のある場合にはカウンセリングや受診に向けた助言を行う。
- ・2年次・3年次に行う技術試験ガイダンスにより、看護技術習得にむけて自主的に技術練習を行えるようにし、練習をしている個人及びグループに対しては、状況判断による技術の適応と応用の助言を行う。また、下級生は患者役割を担い、患者の視点で看護技術を評価することを通して、自己の取り組みに繋がられるにする。
- ・本校独自の奨学金制度（給付型・貸与型）による支援の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
76人 (100%)	0人 (0%)	76人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 医療機関			
（就職指導内容） 附属病院による就職説明会、教員による進路面談の実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 看護師国家試験合格率100%（第107回、第108回、第109回、第110回、第111回）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
246人	3人	1.2%
（中途退学の主な理由） 一身上の都合・進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） カウンセラーによるカウンセリングや担任による定期的な面談・相談の実施		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
看護学科	200,000 円	400,000 円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
獨協医科大学附属看護専門学校三郷校奨学金 (貸与型) 月額：10,000 円～50,000 円 ※ただし、主たる家計支持者の失職、自然災害等、不測の事態により家計状況が急変した場合には月額 100,000 円まで増額貸与可。				
獨協医科大学附属看護専門学校三郷校特別奨学金 (給付型) 月額：20,000 円				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.dokkyomed.ac.jp/misato/school/evaluation.html
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 自己評価結果の客観性・透明性を高めるため、「学校関係者評価委員会」において改善に必要な助言を得るとともに、本校に対する理解促進や継続した連携協力のもと学校運営に関する課題を共有する。 1. 学校関係者評価委員会 構成員 臨地実習施設関係者 (2名)、行政関係者 (1名)、高等学校関係者 (1名)、卒業生 (1名)、在校生保護者 (1名)、地域住民 (1名)、その他教育に関する有識者 (若干名) 2. 主な評価項目 (1) 学校経営 (2) 教育課程、教育活動 (3) 入学、卒業対策 (4) 学生生活への支援 (5) 管理運営、財政 (6) 施設設備 (7) 教職員の育成 (8) 広報 (9) 地域との連携 3. 評価結果の活用 学校長は、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努めるため、評価結果を教職員に告知し共有を図るとともに、評価項目ごとの重点課題を整理し次年度の具体的な改善方法と実施時期を作成する。

<p>4. 結果の公表 学校関係者評価報告書は6月末までに学校ホームページに掲載する。</p>		
<p>学校関係者評価の委員</p>		
所属	任期	種別
病院看護師	R3. 4～R5. 3	臨地実習施設関係者
訪問看護師	R3. 4～R5. 3	臨地実習施設関係者
市役所職員	R3. 4～R5. 3	行政関係者
高等学校校長	R3. 4～R5. 3	高等学校関係者
<p>学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.dokkyomed.ac.jp/misato/school/evaluation.html</p>		
<p>第三者による学校評価 (任意記載事項)</p>		

c) 当該学校に係る情報

<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.dokkyomed.ac.jp/misato/</p>
